

安土城から熊本城へ～近世城郭のルーツを探る～

2018. 9. 15 熊本城調査研究センター定期講座「熊本城学」第 23 回 資料

熊本城調査研究センター 岩橋隆浩

1. はじめに 一本日の構成とねらい

◎安土城とはどんな城なのか

発掘調査の成果などから見ていきます

◎安土城の構造などから織田信長の意図や戦略を考えます

→信長は何を目指したのか？

◎安土城と熊本城に共通するパーツを比較してみましょう

→どのように違うのでしょうか

2. お城とはなんぞや？

◎中世・戦国時代の城

戦う場としての城

戦のための施設・装置

例えば・・・

◎近世の城

泰平の世の中の城

統治・行政のための施設・装置

例えば・・・

◎では安土城は？

両者の過渡期の城

→織豊期城郭

→それまでの城にはない特徴がある

どんな特徴があるのかはこの後で・・・

3. 安土城とは？

◎いつだれが建てたのか？

織田信長が天下布武の拠点として築城

天正 4 年(1576)より築城し天正 7 年(1579)に完成

⇒『信長公記』の記載による

◎どこにあるのか？

滋賀県の中央部にある近江八幡市安土町

標高約 200m の安土山の山麓から山頂にかけて立地

今は田んぼの中の山

築城当時は・・・

周囲を水に囲まれている要害の地

→防御とともに城から直接琵琶湖に出られることが重要

なぜ安土に城を？

◎これまでの調査

昭和 15 年・16 年 → 天主台と本丸の発掘調査と環境整備

平成元年より 20 年計画

城内の主要道とその周辺の郭などの調査と環境整備

◎発掘調査でわかってきたこと

①城内主要道の性格や構造などがわかってきた

大手道・搦手道・百々橋口道・（七曲道）

②主要な郭の内部の様子がわかってきた

伝羽柴秀吉邸跡・伝前田利家邸跡・本丸・天主など

◎発掘調査や城内の悉皆調査などで検証されたこと

①瓦葺建物を多用すること

②建物はほぼすべて礎石立ち建物であること

③総石垣作りの城で高石垣を多用すること

※安土城を特徴付ける 3 点セット

この 3 点＋天主(天守)の存在が織豊期城郭の大きな特徴

→それまでの城にはない画期的な特徴

安土城は近世城郭のさきがけとなる存在

4. 調査成果から見る信長の意図

○城内道

◎大手道と大手門

正面玄関である大手口と本丸を結ぶ道
一見無防備に見える広く一直線の道
しかし道は高い石塁に挟まれている
→大胆さ(見た目のインパクト)と繊細さ(守りの堅さ)

大手門の構造

御所などとの共通性→3つの門の存在
→「常識」と「格」を知っている

◎百々橋口道と惣見寺

城下町と城内を結ぶ道＝広く開かれた道
→開かれたようで閉ざされた空間
→惣見寺を通らないと城内には行けない
→盆山という石がある 何を意味する？

◎搦手道と蔵屋敷・井戸郭

蔵屋敷と城内を結ぶ道
→生活を支える道と施設
上半部と下半部で構造が全く違う
下：物資運搬と保管に適した位置と構造
上：セキュリティを考えた構造
道が郭の中を通っている個所の存在

○主郭部

◎主郭部とは？

安土城の最も中心の部分で信長のプライベート空間
見学ルートでは黒金門より中
天主・本丸・二の丸・台所などがある

◎本丸

本丸御殿は「清涼殿」の裏返し
→『信長公記』に見える「御幸の御間」か？
天皇を迎えるための施設

◎天主

現在見ることでできる天主台は天主の地下1階部分
信長の居住空間と考えられている場所
→本丸(天皇を迎える施設)より高い位置にある
→何を意味するのか？
→見てわかる・見せてわからせる

○城を構成するパーツに見る「信長の見せるテクニク」

◎石垣

主郭部とそれ以外の規模の格差
使用石材の大きさも高さも他と違う
→積む人も訪れる人も見て実感する斬新さと格差
高さへの挑戦
最新の石垣構築技術

◎瓦

紋様も作りの丁寧さもこれまでの瓦とひと味違う
金箔瓦・鯨瓦
→伝統的な技術を基にした新たな「織田家」のシンボル
菊紋と桐紋の瓦
→伝統的権威のシンボルが持つ効果を知っている信長の「常識」

◎天主

伝統的な技術を基盤として新たに創出した「シンボル」の結集
戦う空間→生活する空間・治める空間
常識・伝統を知るからできる「非常識」

5. 安土城・信長のキーワード

◎見た目とインパクト

見せてわからせる信長の力
誰でもわかるわかりやすさ
信長の力とは？
人・もの・技術・財を集められる力
これだけのものを見せられると・・・→戦闘意欲をそぐ→無駄な戦闘の回避

◎安土城は「天下布武」の広告塔

戦いの場・戦のための装置ではない

戦のない世の中を作るための広告塔

政治・経済・都市計画の中心となるシンボル



城の機能と築城思想の大変革

これこそが近世城郭のさきがけと言われる最大の要因

6. 安土城から熊本城へ

◎織豊期城郭の特徴は？

高石垣・瓦葺建物の多用・礎石建物・天主(天守)

⇒信長が城郭の要素として取り入れ、秀吉が発展させる

主な近世城郭にこの要素は受け継がれていく

熊本城にもすべてそろっている

⇒安土城は熊本城の御先祖

◎石垣の進化

石垣は安土城とは雲泥の差

⇒圧倒的に熊本城の石垣が高くて立派

安土城築城：天正4年(1576)

天正7年(1579)信長天主に入る

熊本城築城：天正18年(1590)

慶長12年(1607)にはおおむね完成(本丸の完成)

約30年の間に石垣積の技法は大きく進歩

「野面積み」から「打込接ぎ」への技法の変化

⇒石材加工技術の進歩 より高く・より効率的に

この変化は熊本城内でも見て取れる

⇒第一高校周辺(清正が城を築き始めた場所)の石垣は古い様相

野面積みに近い

現在の城の中心部の石垣はそれよりも新しい様相



熊本と滋賀そして安土城の位置



安土城跡城内主要道と主要な郭の位置



調査前の大手道



発掘調査中の大手道



環境整備後の大手道

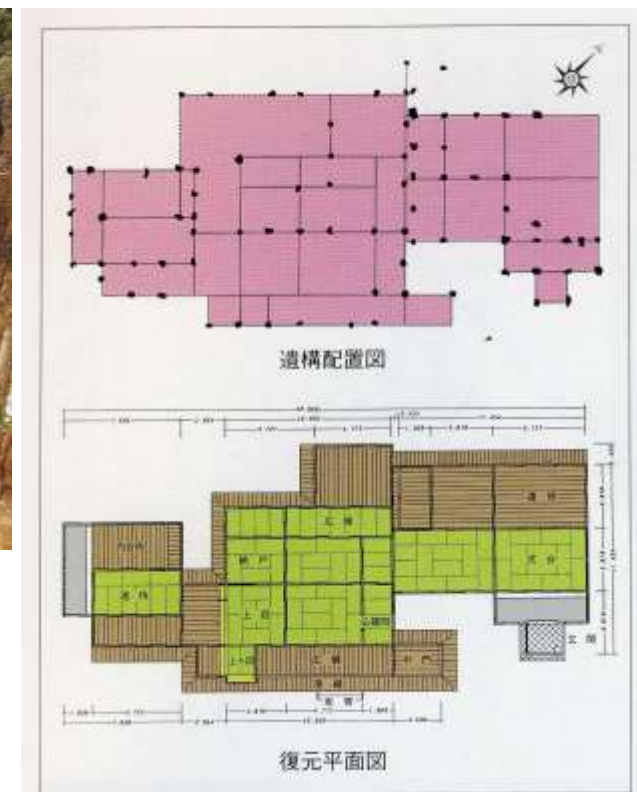


伝羽柴秀吉邸跡上段の遺構

伝羽柴秀吉邸跡上段

建物礎石平面図

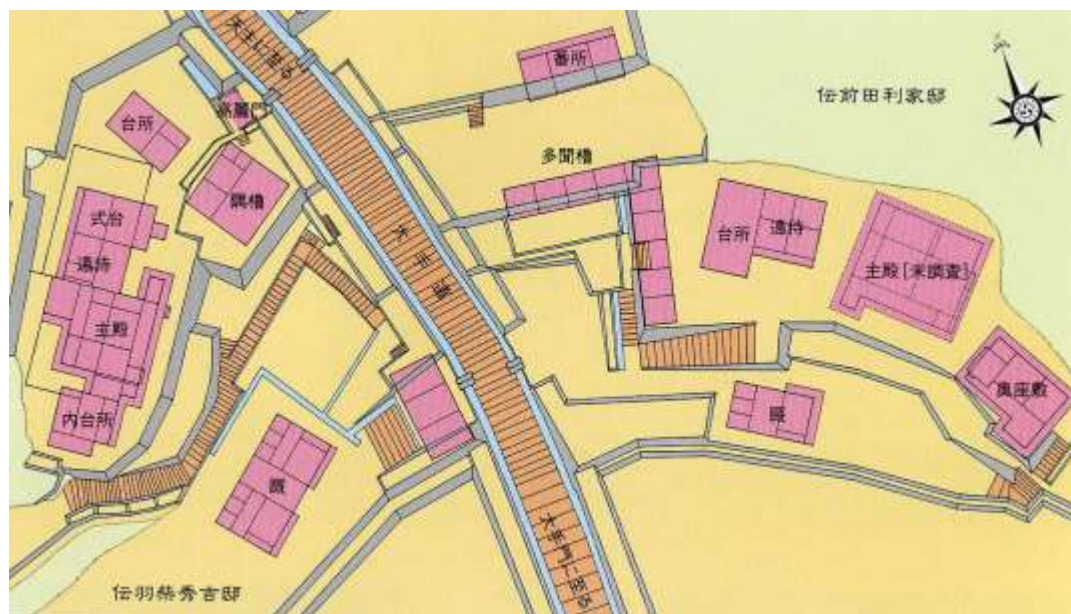
・建物復元平面図



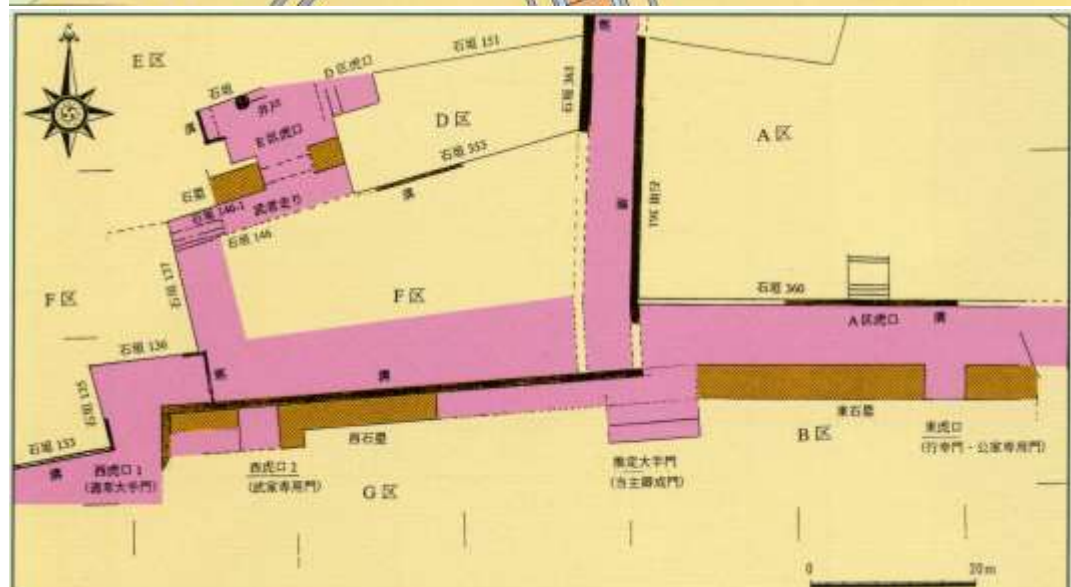
伝羽柴秀吉邸跡上段建物
CGによる復元



伝羽柴秀吉邸跡の様子
CGによる復元
上段：主殿・下段：厩



大手道と諸郭



大手口平面図



搦手道と諸郭



搦手道山麓部



搦手道蔵屋敷虎口

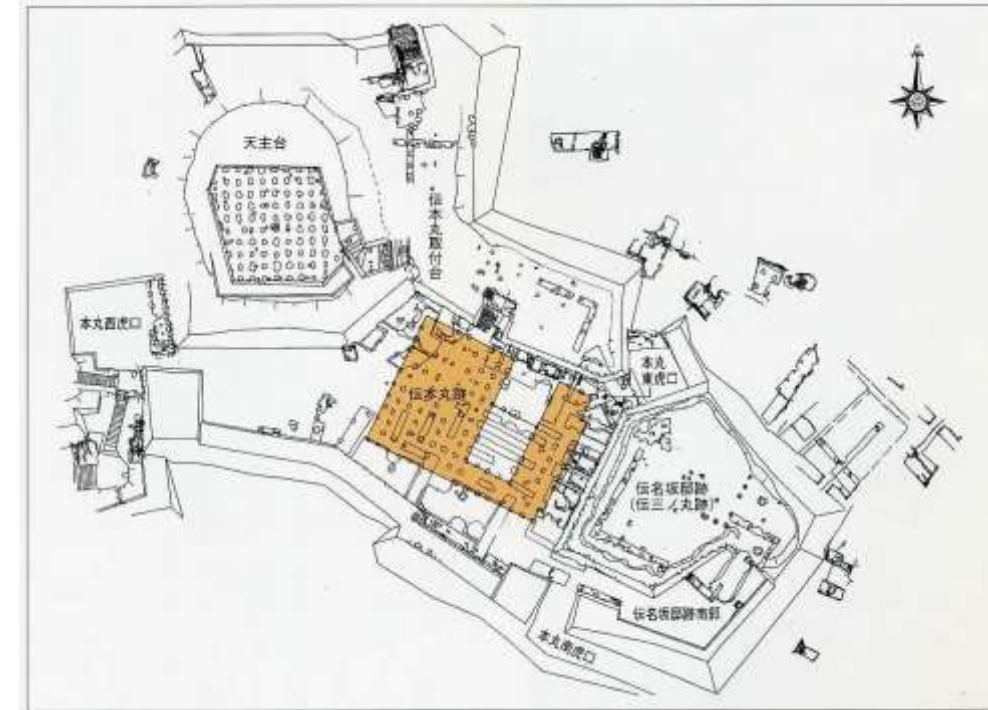


搦手道山腹部



☞ 安土城天主復元模型
(内藤昌氏復元)

☞ 主郭部の諸郭



天主と本丸御殿



本丸御殿の建物礎石群



安土城本丸御殿
復元平面図



☞ 天主台穴蔵に並ぶ天主礎石



☞ 天主台西面直下の様子



主郭部の石垣



猛烈な火災の痕跡



㊦ 搦手口出土金箔瓦 ㊦



㊦ 伝米蔵跡出土鯢瓦

㊦ 伝米蔵跡出土鯢瓦復元品



伝米蔵跡出土鬼瓦



伝米蔵跡出土菊紋瓦・桐紋瓦